

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長
(公 印 省 略)

令和 7 年度農作物病害虫発生予察情報について

令和 7 年度農作物病害虫発生予報第 11 号を発表したので送付します。

令和 7 年度農作物病害虫発生予報第 11 号

令和 7 年 11 月 4 日
徳 島 県

I. 果樹

果樹共通

果樹カメムシ類(令和 7 年 9 月 8 日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10 月の予察灯調査における誘殺数は、勝浦町では、各種カメムシとも平年に比べて少なく推移している。上板町では、ツヤアオカメムシは 10 月第 3 半旬から平年に比べてやや多く推移し、チャバネアオカメムシは第 1 半旬から平年に比べてやや多く推移している(表 1)。
- (2) 10 月第 6 半旬におけるカンキツの巡回調査では、被害果の発生圃場率が 25.0%と、平年(36.3%)並の発生であるが、被害果率は 0.3%と、平年(1.2%)に比べて低い。
- (3) 高松地方気象台が 10 月 30 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 温州ミカン、キウイフルーツ及びカキ園等では、飛来を認めたら早急に防除を行う。

表 1 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2025年	2024年	平年	2025年	2024年	平年
10	1	0	15	148	44	3	52
	2	23	9	76	25	7	43
	3	5	11	37	62	4	19
	4	1	5	32	50	0	13
	5	0	4	15	0	6	11
	6		4	8		4	5
11	1		5	4		6	3
	2		5	18		0	10

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2025年	2024年	平年	2025年	2024年	平年
10	1	0	18	135	83	18	21
	2	2	6	52	26	10	3
	3	9	41	13	34	17	4
	4	2	8	5	11	10	1
	5	1	8	1	4	4	0
	6		0	1		4	0
11	1		0	0		0	0
	2		3	1		0	0

II. 野菜

冬春トマト

コナジラミ類(主にタバココナジラミ)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が100%と、平年(79.3%)に比べてやや高く、寄生葉率が42.0%と、平年(11.6%)に比べて高い。

(2) 高松地方气象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が40.0%、発病葉率が6.0%と、平年(41.4%、3.6%)並の発生である。

(2) 高松地方气象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(2) 発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。

(3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が4.5%、発病葉率が0.1%)。

(2) 高松地方气象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。

(2) 発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。

(3) 薬液が下葉にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

(2) 高松地方气象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、

日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が40.0%と、平年(41.4%)並の発生であるが、寄生葉率は7.2%と、平年(3.8%)に比べてやや高い。また被害果の発生圃場率が20.0%、被害果率は0.4%と、平年(4.5%、0.1%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が80.0%と、平年(92.6%)並の発生であるが、寄生葉率は74.4%と、平年(27.3%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が7.9%、寄生葉率が0.5%)。
- (2) 高松地方気象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

秋冬ダイコン

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10 月第 6 半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 24.4%、発生程度指数が 0.4%)。
- (2) 高松地方気象台が 10 月 30 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

アブラナ科野菜共通

アブラムシ類

- 1) 予報内容
 - 発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 10 月第 6 半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が 23.5%、寄生株率が 2.5%と、平年(61.5%、16.3%)に比べて低い。
 - (2) 高松地方気象台が 10 月 30 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
 - (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
 - (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

コナガ

- 1) 予報内容
 - 発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 10 月第 6 半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が 5.9%、10 株当たり寄生幼虫及び蛹数が 0.0 頭と、平年(22.6%、0.1 頭)に比べて低い。
 - (2) 高松地方気象台が 10 月 30 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
 - (2) 葉裏に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
 - (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

モンシロチョウ

- 1) 予報内容
 - 発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 10 月第 6 半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 9.6%、10 株当たり寄生幼虫数が 0.1 頭)。
 - (2) 高松地方気象台が 10 月 30 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 若齢幼虫時の防除に努める。

秋冬ネギ

さび病

- 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

(2) 高松地方気象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除効果が期待できない場合が多いので、発病前から定期的に薬剤を散布して予防する。

(2) 肥料切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が4.4%、寄生株率が0.1%)。

(2) 高松地方気象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が88.9%、被害度が5.6と、平年(57.8%、3.0)に比べてやや高い。

(2) 高松地方気象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、被害度が0.1と、平年(54.4%、4.0)に比べて低い。

(2) 高松地方気象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 被害葉は有力な発生源となるので、圃場周辺に放置せずに、速やかに処分する。

冬レタス

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が28.6%と、平年(13.5%)に比べてやや高いが、寄生株率は0.3%と、平年(0.5%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

冬春ホウレンソウ

べと病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
- (2) 高松地方気象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 徳島県では、本病原菌レース1～13まで確認されているため、品種はレース1～13に抵抗性があるものを利用する。
- (2) 病原菌は被害株上で越冬し、春になると分生胞子を形成して伝染源となる。春先の発生を抑制するために、薬剤を予防的に散布して伝染を防止する。
- (3) 葉が繁茂して軟弱となると被害が多いので、肥培管理に注意する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が11.1%、1株当たりの寄生虫数が0.0頭と、平年(8.2%、0.0頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

シロオビノメイガ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%と平年(13.9%)に比べてやや高く、寄生株率が6.4%と、平年(2.2%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 2mm目合いの防虫ネットを被覆し産卵を抑制する。

冬春イチゴ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が4.1%、発病葉率が0.0%)。

(2) 高松地方気象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生が多くなってからでは防除が困難になるので初期防除に努める。

(2) 罹病葉は伝染源になるので、見つけ次第圃場外に持ち出し、病原菌密度の低下に努める。

(3) 古葉を早めに除去し、葉裏に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

(4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が22.3%、寄生株率が2.3%)。

(2) 高松地方気象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ハダニ類(令和7年7月22日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%と、平年(21.4%)並の発生であるが、寄生葉率が5.2%と、平年(1.4%)に比べて高い。

(2) 高松地方気象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 葉裏に寄生しているので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

野菜共通

ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が23.5%と、平年(42.5%)に比べてやや低く、寄生株率が1.3%と、平年(3.5%)に比べてやや低い。

(2) 10月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査9地点の平均)は、10月第5半旬まで平年に比

べてやや低く推移しているが(図1)、東みよし町昼間では、10月第5半旬の誘殺数が544頭と、平年(275頭)の約2.0倍となった。

(3) 高松地方気象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、若齢幼虫時に防除を行う。

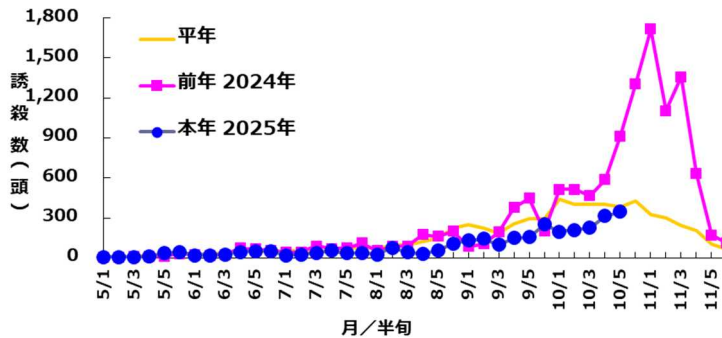


図1 ハスモンヨトウフェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)

*徳島市・石井町・阿波市・吉野川市・東みよし町・三好市の9地点平均

シロイチモジヨトウ(ねぎでは令和7年8月5日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや少ない)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

(1) 10月第6半旬におけるブロッコリー・カリフラワーの巡回調査では、発生圃場率が35.3%と、平年(20.8%)に比べてやや高く、寄生株率が3.5%と、平年(1.3%)に比べてやや高い。

(2) 10月第6半旬における冬レタスの巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が13.1%、寄生株率が0.4%)。

(3) 10月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7地点の平均)は、10月第1半旬から第5半旬において1,169頭と、平年(553頭)の約2.1倍となった(図2)。

(4) 高松地方気象台が10月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、若齢幼虫時に防除を行う。

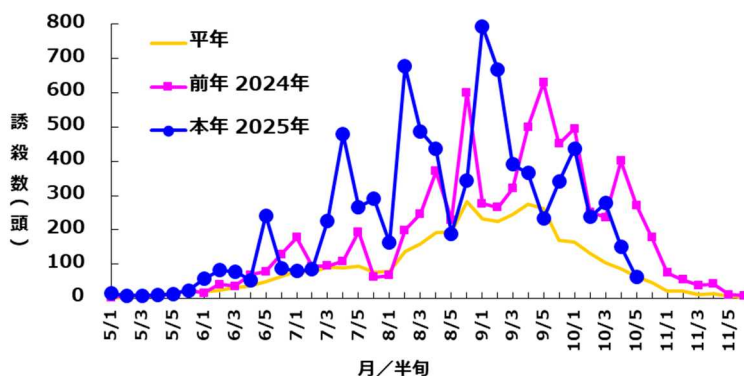


図2 シロイチモジヨトウフェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)

*徳島市・石井町・阿波市・吉野川市の7地点平均

オオタバコガ(令和7年9月8日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 10 月第 6 半旬における冬レタスの巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 1.0%、寄生株率が 0.0%)。
- (2) 10 月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査 6 地点の平均)は、10 月第 4 半旬まで平年に比べてやや多く推移している(図 3)。
- (3) 高松地方気象台が 10 月 30 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 結球野菜では、幼虫食入後は薬剤の効果がないので、結球直前までに、使用基準に基づき必ず薬剤防除を行う。

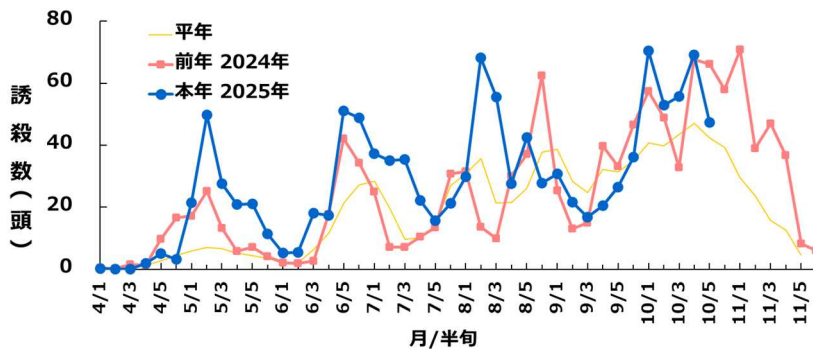


図 3 オオタバコガ フェロモントラップ誘殺数推移

*阿波市・三好市・東みよし町・石井町の 6 地点平均

Ⅲ. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。